

## 中日本カプセル グエン・タ・ティンさん 営業部ベトナム担当



「ベトナムに良い商品を届けることが、健康社会への貢献につながる」と話すティンさん

### ベトナムと日本の架け橋に

サプリメントなどカプセルタイプの健康食品を受託生産する中日本カプセル(本社大垣市荒尾町2-29の2)営業部のグエン・タ・ティンさん(33)は、母国ベトナムの営業を担当している。同社は昨年10月、ベトナムに現地法人を設立するなど、回国での事業拡大に乗り出している。ティンさんは「健康社会に向けて、ベトナムと日本の架け橋になりたい」と瞳を輝かせる。首都ハノイの出身。ハノイ工業大学で自動車工学を専攻した。現地の企業に勤めながら、独学で日本語を学び、2015年に来日。20年、ハノイに駐在員事務所を開設した中日本カプセルに入社した。入社後、日本語能力試験で最高レベルの「N1」を取得。営業部での仕事は当初「通訳」が中心だったが、現在ではベトナム向けの全ての営業業務

### 「健康社会」めざしスキルアップ

を任せられている。「言語だけでなく、ベトナム人が好むことを知っている」ことが大きな強みだ。海外営業を担当する営業2課はティンさんのほかにベトナム人2人、中国人1人が在籍する国際色豊かな職場。その中でティンさんには外国人社員のリーダーとしての役割も求められており、「自分の経験を伝えていきたい」と後輩の指導も忘れない。ベトナムには年に3、4回出張し、展示会の企画・運営も手掛ける。「ベトナムに良い商品を届けることが、会社の使命である健康社会への貢献につながる」と言い切る。「ベトナム市場のすべてを任せてもらえるような責任ある仕事をしたい。そのためにはもっとスキルをアップしなければ」と先を見据え、「貿易業務と英語の勉強に集中している」という。ティンさんら外国人社員の活躍は、同社の海外事業拡大の大きな原動力となっている。(西濃・春田昭経)